

伊豆大島の魅力発見 ～フィールドワーク事始め～

担当教員名 安岡 宏和／杉戸 信彦

1 コースの概要

日 程	2014年9月1日～5日
場 所	伊豆大島
参加人数	31名

2 コースの目的

産業・自然・観光をテーマとして、フィールドの人びとと話し、自然環境を体験することをとおして、伊豆大島の魅力を発見する。そのうえで大島の課題について考え、その課題を自分の取り組むことのできる具体的な設問に落とし込むプロセスを学ぶ。

3 事前学習

事前学習では、現地で見聞きする個別的・具体的な事柄や出来事を、大きな問題意識と関連づけながら把握するための準備として、さまざまな社会的課題をとりあげてグループディスカッションをおこなった。また、2013年10月に発生した大規模な土砂災害について、地図等を活用しながら被災範囲・規模を確認した。

4 行程

1日目

21:30 東京港集合。

23:00 伊豆大島への夜行船便発

2日目

5:00 伊豆大島岡田港着。午前中は大島町郷土資料館を訪れ、館長さんに伊豆大島の自然と文化について概要を話していただいた。午後は、大島町役場の産業観光課の方に伊豆大島の観光の現状および昨年の土砂災害後の復興状況について、ついで大島牛乳株式会社の社長さんに大島における牛乳生産の歴史と課題について、お話をうかがい、議論をおこなった。

3日目・4日目

終日、あらかじめ決めておいたグループに分かれて、大島各地を訪れ、大島の魅力と課題について「気づき」を収集した。夕方のミーティングにて、その日の行動について班ごとに報告し、それぞれの「気づき」を共有した。

5日目

午前中は、元町地区にて土砂災害現場を踏査した。伊豆大島では、火山島ゆえに、火山災害や土砂災害が繰り返し発生してきた。踏査では、事前学習での作業をベースとして、土砂の流下した範囲を現地で確認し、地形や地層を随所で観察しながら、大島の成り立ちや土砂災害のメカニズムを検討した。

踏査をとおして、災害軽減には、地域の自然的個性、砂防堰堤などのハード面、消防団などのソフト面など、自然と社会全般を見わたして考えるプロセスが重要であることが確認できた。

12:30 現地解散。

5 事後学習

班ごとに、フィールドでの「気づき」を軸にしながら大島の魅力と課題についてまとめ、15分の報告をおこなった。さまざまな観点から大島の自然や文化の魅力について報告がなされたが、一方で、そのような魅力をつくりだしている火山島であると環境条件が、噴火や土砂崩れの誘発といったかたちで災害の要因にもなっている事実を認識した。また、後期に開講される「フィールド調査論」を履修した学生は、フィールドスタディでの「気づき」をもとに、研究課題として練り上げるプロセスを学んだ。



大島牛乳株式会社の社長さんに大島における牛乳生産の歴史について説明を受けているところ